

1. どうやって川でサケをとるの? — 猿別川の捕獲場

(1) 海じゃなくて川でとる

みなさんが食べるサケ(シロザケ)は、ふつう海でとられたものです。

しかし、ここ猿別川の捕獲場でもサケがとられています。どんなふうに、そしてどうしてつかまえているのでしょうか?

そのほか十勝川(千代田堰堤)、広尾川、歴舟川などの川でもサケはとられています。

注意!!…見学などの時は、あらかじめお願いして、許可をもらってからにしましょう。作業のじゃまをせず、お礼をしっかりとしましょう。



猿別川のウライ。サケは上り口を探して、矢印のワナに入る。

(2) サケをとるしかけ…ウライ

ウライは、川幅全部を魚が上れないようにして一部にすき間を作り、そこにつかまえるしかけをしておくことで、川を上る魚をとらえる仕組みです。

もともと、ウライはアイヌの人たちの漁法でした。アイヌのウライは、川幅のせまい小川にくいを何本か打ちこみ、そこにヤナギの枝などをからませて作ったといいます。

参考: 「十勝川の川舟文化史 滞標」編集委員会 編



十勝川水系にある、さけ・ます捕獲場



十勝川、千代田堰堤のさけ・ます捕獲場。クレーンで網(四つ手網)を引き上げてサケをとる。



①ウライの下流で上れる場所を探すサケ。



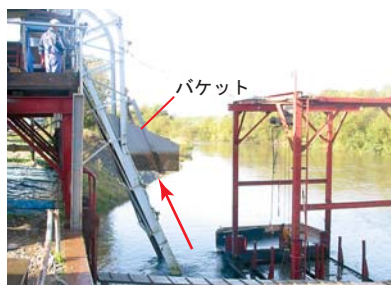
②ウライのすき間から、サケがかご(捕獲槽)に入る。



③サケが集まったら捕獲槽が持ち上げられ、



④ふたを開けバケツに流しこむ。



⑤バケツはエレベーターになっていて、



⑥作業場所にサケを運び上げる。



⑦作業場所でオスとメスに分けられる。



⑧採卵に必要な親サケは蓄養池(104ページ)へ運ばれる。

※1 稚魚(ちぎよ): すべてのヒシにある条=スジの数が、成魚と同じになってから、ウロコがでかあがるまでの間の魚。その前は仔魚(しぎよ)という。

※2 シロザケ(白鮭): サケ(鮭)と名が付く魚には、もともと日本にはいないベニザケ(紅鮭)、ギンザケ(銀鮭)があり、さらにグループを表すサケ科やサケ属などもある。これらと区別するために、日本にいるもともとを、シロザケと呼ぶことがよくある。

川で行われた大きな工事

川につながる

川につながる農業

川につながる漁業や工業

付録